

2. 出産・育児等を機に離職した仕事について

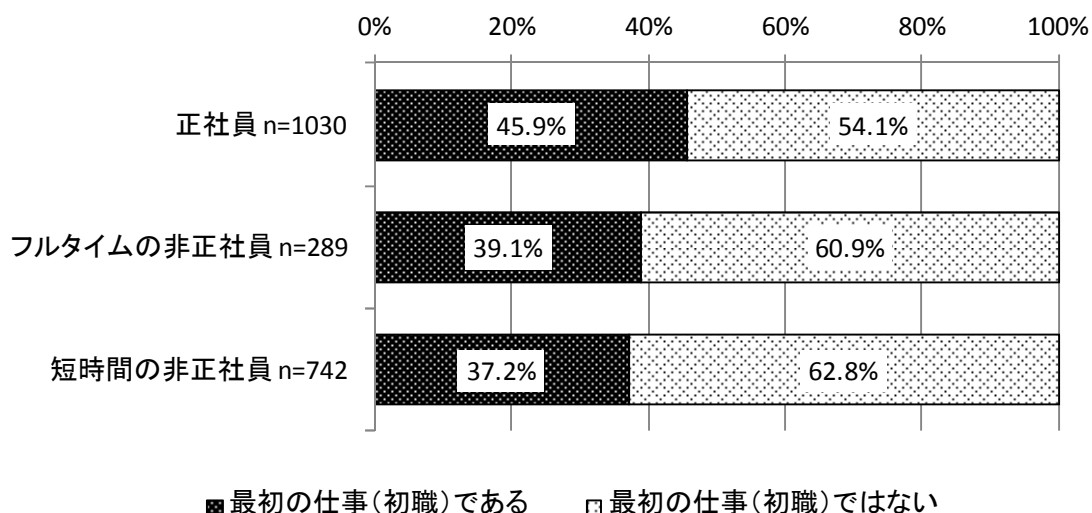
- 出産・育児等を機に離職した仕事が、「最初の仕事（初職）である」割合は、正社員は5割弱、フルタイム及び短時間の非正社員は4割弱である。（※就業形態は再就職後である。以下同様。）
- 離職した仕事の実業形態は、正社員は「正社員（フルタイム）」が81.9%、フルタイム及び短時間の非正社員は、それぞれ「正社員（フルタイム）」が6割弱、「パート・アルバイト」が3割弱を占めている。
- 離職した仕事の実業種は、正社員は「専門職・技術職」が24.2%、「その他一般事務」が16.7%である。フルタイムの非正社員は「サービス（調理、接客等）」「専門職・技術職」がそれぞれ2割強、短時間の非正社員は、「専門職・技術職」「その他一般事務」がそれぞれ2割弱を占めている。
- 離職した仕事の実業員規模は、正社員、非正社員とも「50人以下」が3～4割と多い。また、「1,001人以上」も1～2割を占めており、小規模の企業と、大企業に勤めていた人がそれぞれ一定程度いることがうかがえる。
- 離職前の仕事の実業がいは、「非常に感じていた」が2割前後、「ある程度感じていた」が5～6割で、両者を合わせて、実業がいを感じていた人が7～8割を占めている。
- 出産・育児等を機に離職した理由は、「家事・育児に専念するため、自発的にやめた」が4～6割で最も多く、次いで「勤務時間が長い（残業など）・不規則など、時間的に両立が難しかった」や、「配偶者・パートナーの勤務地の問題や転勤で、仕事を続けるのが難しかった」があげられている。
- 離職した当時、ほとんどの人が再就職の実業を有しており、「再び就業するつもりはなかった」との回答は5%前後にとどまっている。また、正社員は、「（仕事を辞めた後、）すぐにでも就業したいと思っていた」割合が高く、非正社員は「子ども（末子）がある程度の実業になったら就業したいと思っていた」、もしくは「特に時期を決めていないがいずれ就業したいと思っていた」割合が高い。

(1) 離職した仕事について、最初の仕事（初職）かどうか

出産・育児等を機に離職した仕事について、最初の仕事（初職）かどうかをみると、正社員は他と比較して、「最初の仕事（初職）である」（45.9%）割合が最も高い。

フルタイムの非正社員、短時間の非正社員は、「最初の仕事（初職）である」割合は、それぞれ39.1%、37.2%となっている。

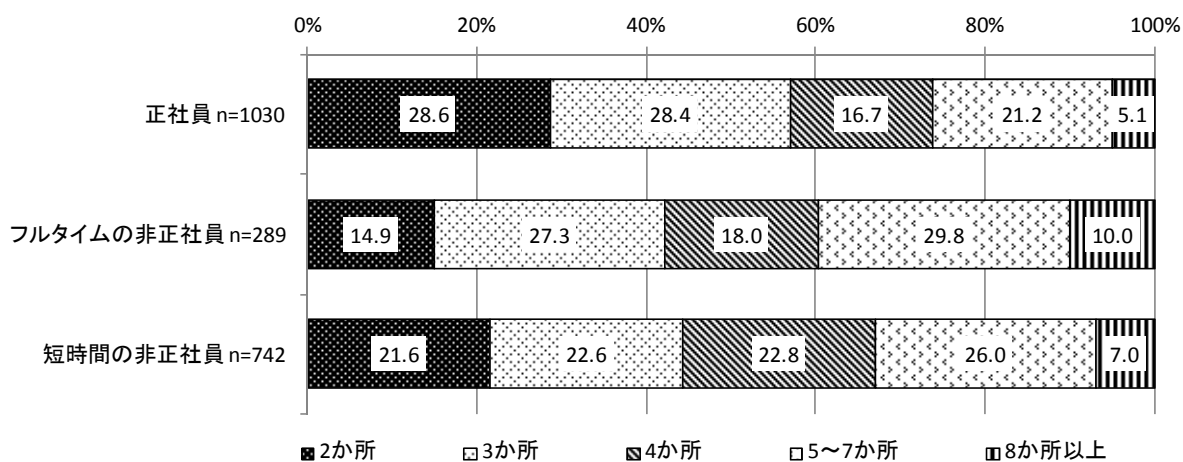
図表 16 離職した仕事について、最初の仕事（初職）かどうか：単数回答（Q10）



(2) これまで（調査時点）に働いた会社数

これまで（調査時点）に働いた会社数をみると、正社員は「2か所」（28.6%）と「3か所」（28.4%）がそれぞれ3割弱を占めている。フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、正社員に比べて多い傾向にあり、「5～7か所」（29.8%、26.0%）と「8か所以上」（10.0%、7.0%）を合わせた『5か所以上』も3～4割を占めている。

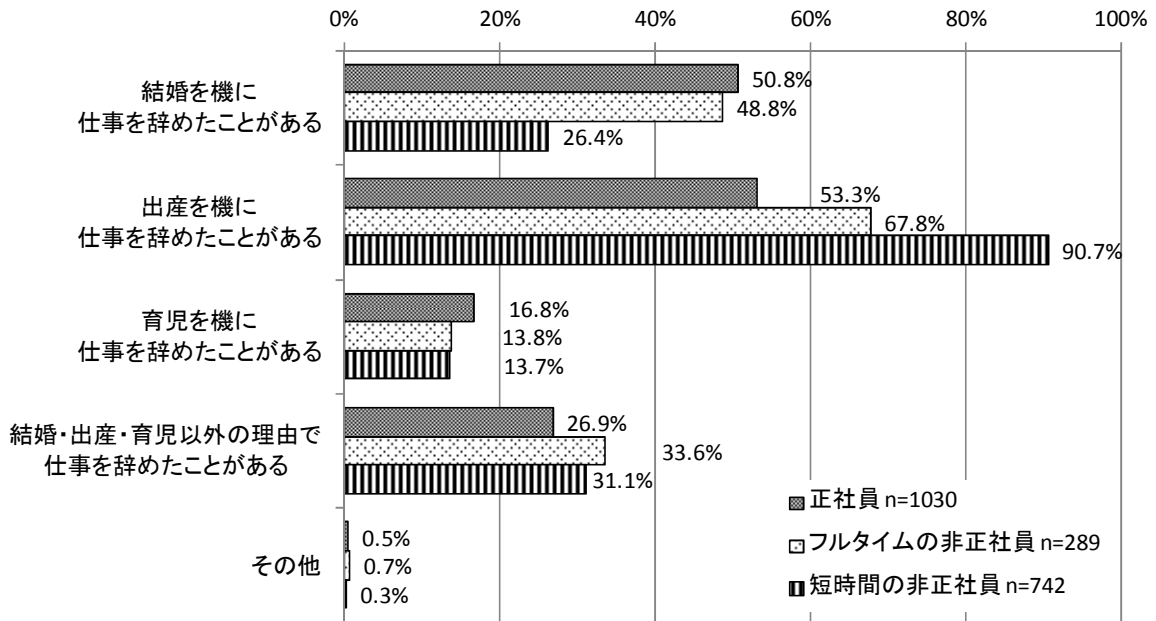
図表 17 これまで（調査時点）に働いた会社数：数値回答（Q8）



(3) 離職の経験

離職の経験については、短時間の非正社員は「出産を機に仕事辞めたことがある」（90.7%）が約9割にのぼっており、出産により退職したことがある人が多い。正社員及びフルタイムの非正社員は、「出産を機に仕事を辞めたことがある」人はそれぞれ 53.3%、67.8%であり、「結婚を機に仕事を辞めたことがある」人が 50.8%、48.8%で約半数となっている。

図表 18 離職の経験：複数回答（SQ6）



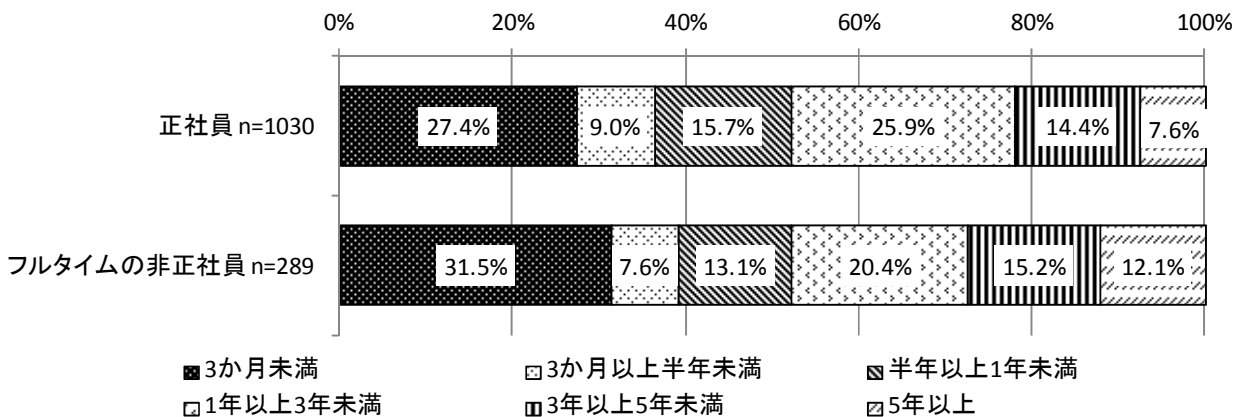
注) 出産・育児を機に離職した経験のある人を調査の対象とし、サンプル数が不足する場合には結婚を機に離職した経験のある人も調査の対象に含めることとした。

(4) 直近の就職をする前の離職期間

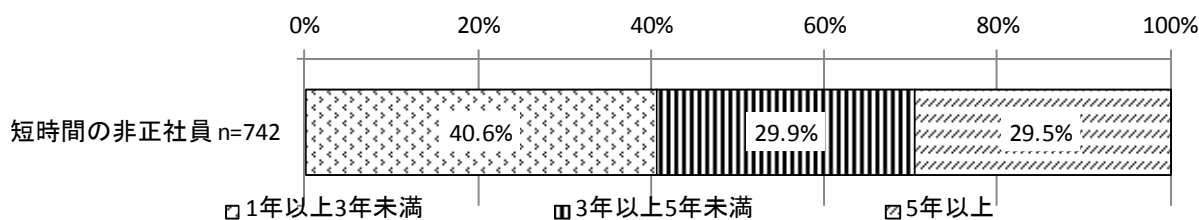
直近の就職をする前の離職期間をみると、正社員及びフルタイムの非正社員は「3か月未満」、「3か月以上半年未満」、「半年以上1年未満」を合わせた『1年未満』と、「1年以上3年未満」、「3年以上5年未満」、「5年以上」を合わせた『1年以上』の割合が、ほぼ半々となっている。短時間の非正社員については、「1年以上3年未満」（40.6%）が最も割合が高く、「3年以上5年未満」（29.9%）及び「5年以上」（29.5%）もそれぞれ約3割を占めている。

図表 19 直近の就職をする前の離職期間：単数回答（SQ7）

【正社員／フルタイムの非正社員】



【短時間の非正社員】



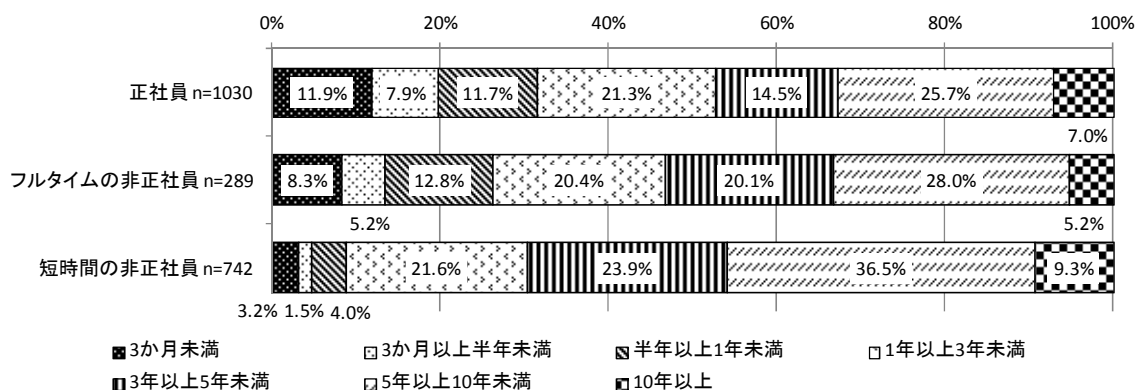
注) 直近の就職をする前の離職期間については、一定の期間をおいてから再就職している人を対象とした方が、再就職にあたっての課題や、再就職後のキャリア形成への影響などを分析できると考え、短時間の非正社員については、1年以上の人を調査の対象とした。正社員及びフルタイムの非正社員については、調査対象数を確保するため、離職期間が1年未満の人も対象に含めることとした。

(5) これまで（調査時点）の離職のうち、最も離職期間が長かった期間

これまで（調査時点）の離職のうち、最も離職期間が長かった期間をみると、「5年以上10年未満」の割合がそれぞれ最も高く、正社員（25.7%）、フルタイムの非正社員（28.0%）、短時間の非正社員（36.5%）となっている。

また、正社員、フルタイムの非正社員、短時間の非正社員の順に、離職期間が長くなる傾向がみられる。

図表 20 これまで（調査時点）の離職のうち、最も離職期間が長かった期間：単数回答（Q9）

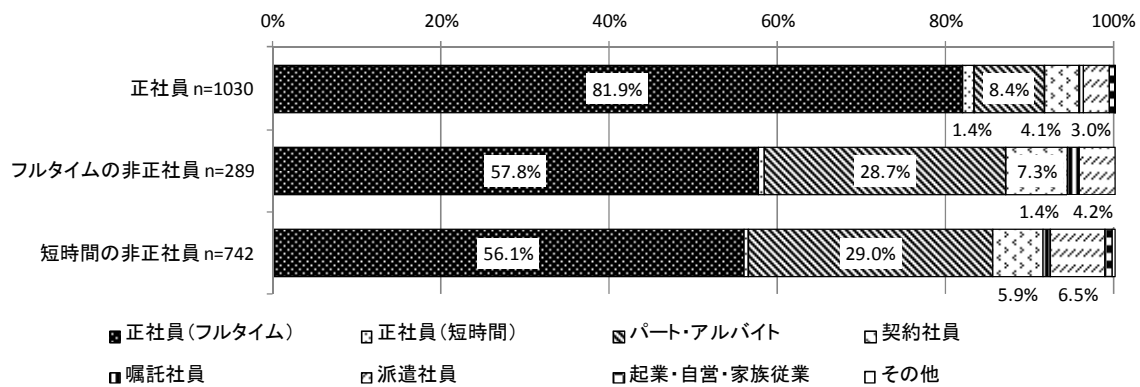


(6) 出産・育児等を機に離職した仕事について

①就業形態

出産・育児等を機に離職した仕事の就業形態をみると、正社員は「正社員（フルタイム）」が81.9%で大半を占めている。一方、フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、「正社員（フルタイム）」が6割弱、「パート・アルバイト」が3割弱を占めている。

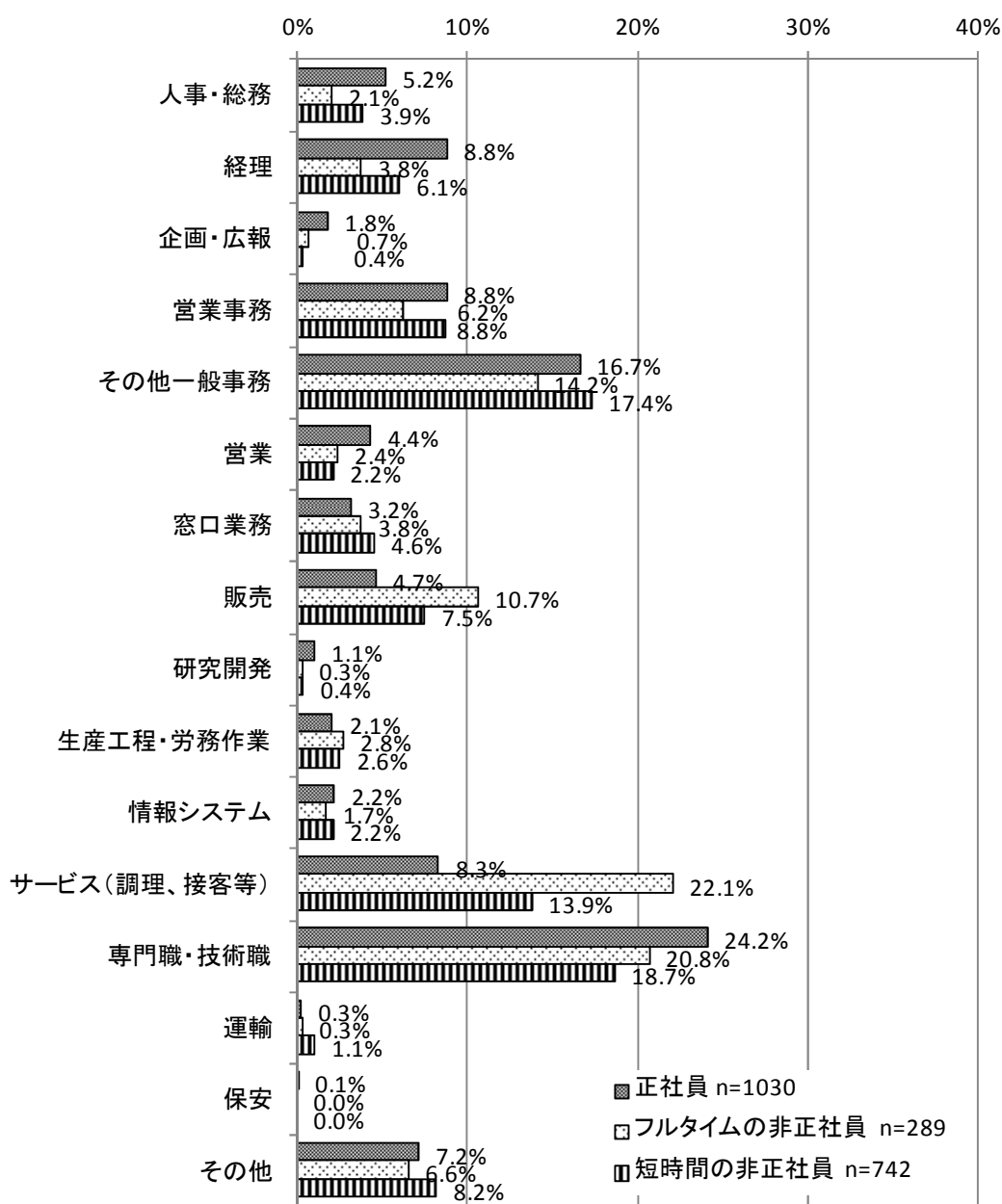
図表 21 就業形態：単数回答（Q11）



②職種

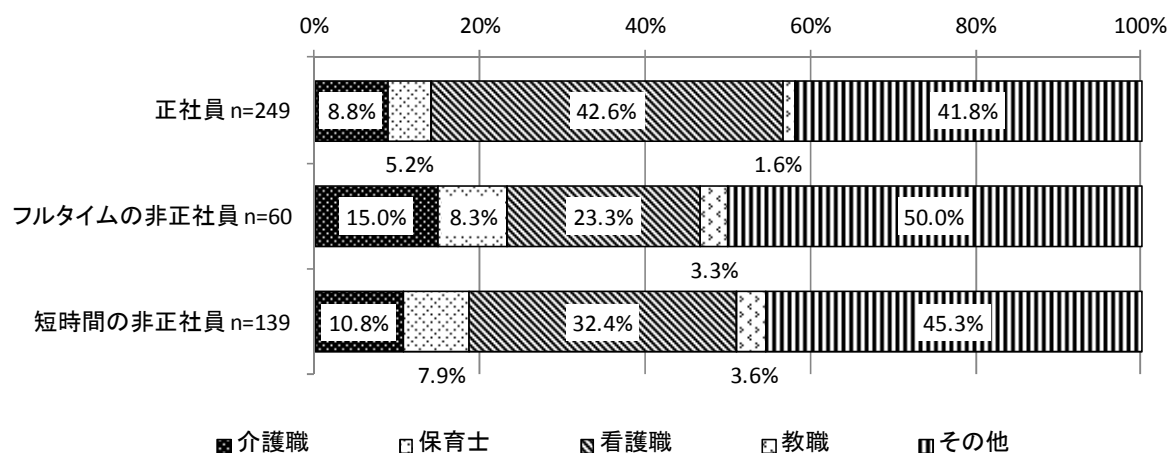
出産・育児等を機に離職した仕事の職種をみると、正社員は「専門職・技術職」(24.2%)の割合が高い傾向にある。次いで「その他一般事務」(16.7%)である。フルタイムの非正社員は、「サービス(調理、接客等)」(22.1%)、「専門職・技術職」(20.8%)の割合が高くなっている。短時間の非正社員は、「専門職・技術職」(18.7%)、「その他一般事務」(17.4%)の割合が高くなっている。

図表 22 職種：単数回答 (Q12)



離職前の職種が「専門職・技術職」であった人について、具体的にみると、正社員は他と比較して、「看護職」（42.6%）の割合が高く、フルタイムの非正社員は「介護職」（15.0%）の割合が高くなっている。

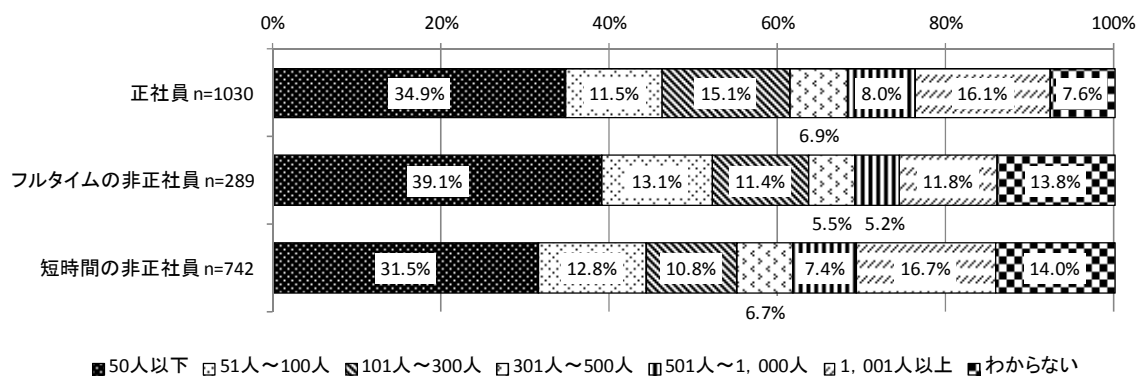
図表 23 専門職・技術職の具体的な内容（初職）：単数回答（Q13）



③従業員規模

出産・育児等を機に離職した勤務先の従業員規模をみると、正社員、非正社員とも「50人以下」の割合が最も高く、3～4割を占めている。次いで、正社員及び短時間の非正社員は、「1,000人以上」（16.1%、16.7%）が続いており、小規模の企業と、大企業に勤めていた人がそれぞれ一定程度いることがうかがえる。

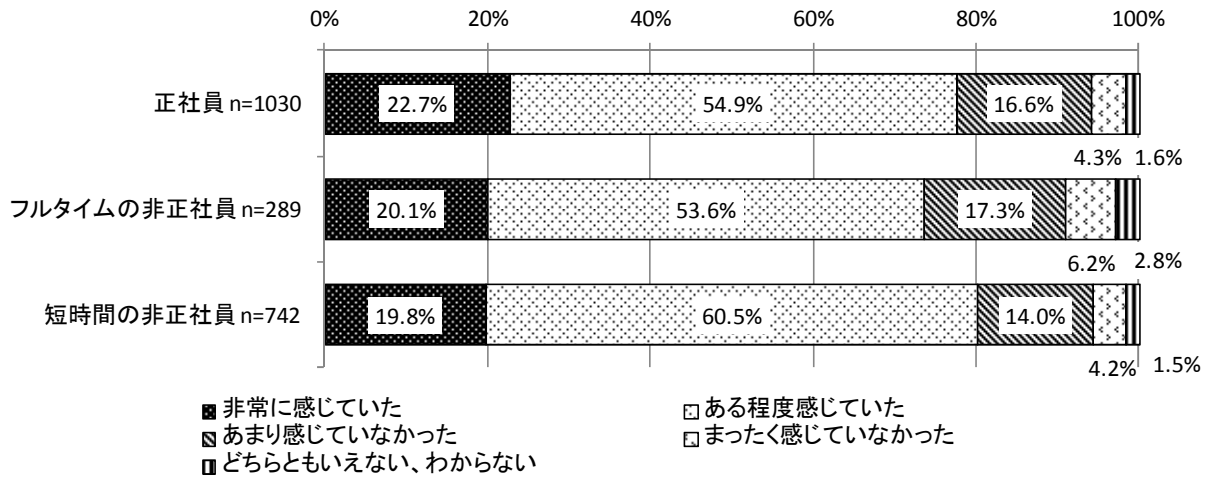
図表 24 従業員規模：単数回答（Q14）



④ 離職前の仕事のやりがい

離職前の仕事のやりがいをみると、正社員、非正社員とも「非常に感じていた」と「ある程度感じていた」を合わせたやりがいを感じていた人の割合は、7～8割程度を占めている。

図表 25 離職前の仕事のやりがい：単数回答（Q15）

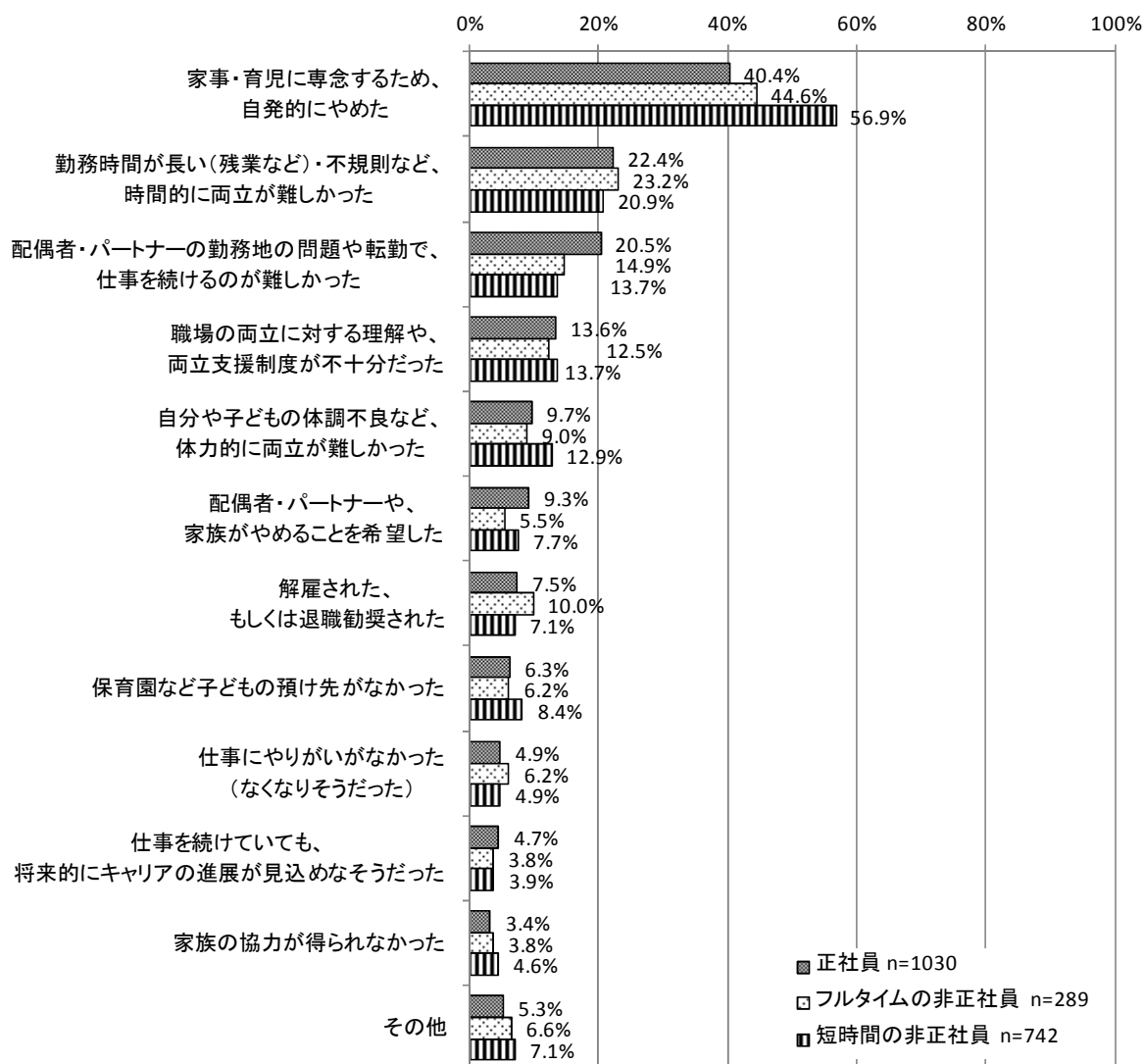


(7) 出産・育児等を機に離職した理由

出産・育児等を機に離職した理由をみると、正社員、非正社員とも「家事・育児に専念するため、自発的にやめた」が最も割合が高い。次いで、「勤務時間が長い（残業など）・不規則など、時間的に両立が難しかった」、「配偶者・パートナーの勤務地の問題や転勤で、仕事を続けるのが難しかった」が続いている。

就業形態別にみると、短時間の非正社員は他と比較して、「家事・育児に専念するため、自発的にやめた」（56.9%）の割合が高く、正社員は「配偶者・パートナーの勤務地の問題や転勤で、仕事を続けるのが難しかった」（20.5%）がやや高くなっている。

図表 26 出産・育児等を機に離職した理由：複数回答（Q16）

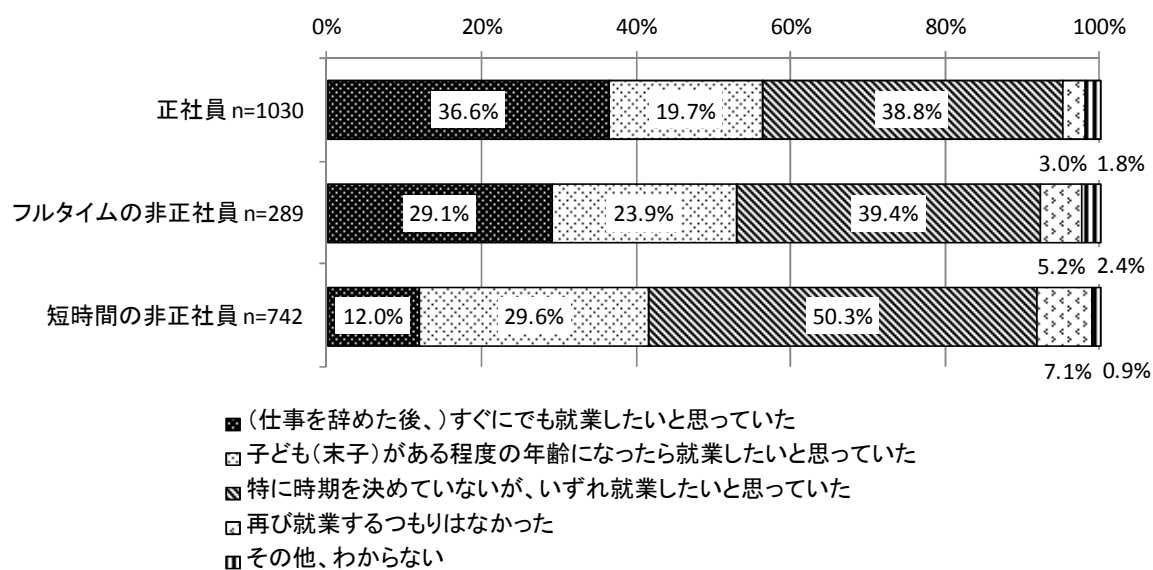


(8) 離職した当時の再就職についての意向

離職した当時の再就職についての意向をみると、正社員、非正社員ともほとんどの人が、離職時に再就職の意向を有しており「再び就業するつもりはなかった」との回答は5%前後にとどまっている。

就業形態別にみると、短時間の非正社員、フルタイムの非正社員、正社員の順に再就職の意向が強くなる傾向にあり、正社員は他と比較して、「(仕事を辞めた後、) すぐにでも就業したいと思っていた」(36.6%)の割合が高い。一方、短時間の非正社員は、「子ども(末子)がある程度の年齢になったら就業したいと思っていた」(29.6%)や、「特に時期を決めていないが、いずれ就業したいと思っていた」(50.3%)の割合が高い。

図表 27 離職した当時の再就職についての意向：単数回答 (Q17)



(9) 再就職の際にキャリアや自分の能力を活かすことについて

離職当時、再就職の際にキャリアや自分の能力を活かすことについて、どのように思っていたかをみると、正社員、非正社員とも「やや難しいと思っていた」が最も割合が高く、3～4割強を占めている。次いで、「あまり難しいと思っていなかった」、「非常に難しいと思っていた」の順となっている。

就業形態別にみると、正社員は他と比較して「全く難しいと思っていなかった」(12.0%)の割合が高く、キャリアや自分の能力を活かした再就職を難しいと思っていなかった人(「全く難しいと思っていなかった」及び「あまり難しいと思っていなかった」と、難しいと思っていた人(「非常に難しいと思っていた」及び「やや難しいと思っていた」)が概ね半々である。フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、難しいと思っていた人の方が多くなっている。

図表 28 再就職の際にキャリアや自分の能力を活かすことについて：単数回答 (Q18)

